



社会福祉法人 済生会 済生会熊本福祉センター	
就労継続支援A型・B型 就労移行支援 済生会かがやき	幼保連携型 認定こども園 済生会しらふじ子ども園 児童発達支援センター 済生会なでしこ園
就労継続支援B型 生活介護 済生会ほほえみ	済生会グループホーム事業所 済生会熊本福祉相談支援センター
就労継続支援A型・B型 済生会ウイズ	熊本市障がい者相談支援センターさいせい 熊本県地域生活定着支援センター

こんにちは!! 済生会熊本福祉センターです。

私達の福祉センターは、認定こども園、児童発達支援センター、地域生活定着支援センター、障がい福祉サービス事業所で構成されています。

園児・利用者・従業員・職員総勢約620名が毎日『すまいるん』で頑張っています!!

済生会熊本福祉センターの理念及び基本方針

理 念 一人ひとりを尊重し、共に生きる社会の実現をめざします

基本方針 ・ライフステージに応じた自立を支援します。

・専門性と施設機能を活かし、地域社会に貢献します。

・利用者主体の福祉を実践します。

済生会ウイズ管理者退任のご挨拶

木下 裕幸



私が済生会熊本福祉センターに赴任して6年半が過ぎようとしています。さて私、2024年3月をもって済生会ウイズ管理者を辞することになりました。岡本元事務長後任の3代目事務長として就任したものの、巷でいう3代目と違い、イケメンでなければ、歌や踊りができるわけでもない上に、福祉の右も左も分からない素人を優しく受け入れていただいた同僚と利用者に、まずは心より感謝申し上げます。

おかげさまで6年半の短い期間ではありますが、障がい福祉への理解も少しはできるようになりました。最初は戸惑いしかない世界で、耳に入る言葉は日本語だけと意味が通じないことばかりでした。やがてそれらが理解できるようになりましたが、それを知っても何もできない自分のふがいなさも痛感してきました。この場をお借りし、皆様に私の力不足を心からお詫び申し上げます。

私事ではありますが、この6年間で私も障害を持つ孫のおじいちゃんになりました。その孫もおかげさまでなんと3歳になりましたが、まだ立てませんし、「じいじ」と呼ばれたこともありません。以前の私であれば、この孫にどう接していいのか分からず、一家を上げてパニックになっていたことでしょうが、少しは冷静に孫の親である子供夫婦や孫本人と向き合うことができていているように思います。これも福祉センターでの貴重な体験の賜物と感謝しています。そういう意味でもこちらに縁があって就労させていただき、私は恵まれていたと思います。ありがとうございました。

実は60を超えたあたりから少しづつ老いを感じるようになりました。目は緑内障で、耳は補聴器が必要、記憶力も怪しくなって「老い」を感じるが増えました。同僚と意見交換している際も、「それ先日話し合ってたよね」と言われ、そのような記憶がないことから、ショックを受け、自信もなくなってきました。このような状態では管理者として適切な判断を下し組織を指揮することは組織に不利益を与えると考え、所長に退任を申し出た次第です。

これからのウイズは3月の新食品加工棟の落成、それに引き続いたクリーニング工場のリニューアルと大きな変革が待っています。ウイズは、単に障がい者就労施設というだけではなく、クリーニングは地域医療を支える重要な役割も担っています。食品事業もしくりで、スーパーの品ぞろえは我々の手にかかっています。今回のリニューアルはこれからの10年、20年を見据えた大切な事業であり、若い方々の活性化した感性にこれからのウイズを託して、老兵は後方からのバックアップに専念させていただきます。

今までお付き合いいただいた皆さんに感謝申し上げ、皆様のますますのご健勝を祈念して退任の挨拶に代えさせていただきます。

熊本県地域生活定着支援センター長退任のご挨拶

吉野 雅人



熊本県の委託事業である「熊本県地域生活定着支援センター（以下「センター」）」は、2010年8月に開設され、2014年4月から熊本県済生会が事業を引き継ぎました。私自身は、2020年7月に済生会熊本病院からセンターへ異動となり約4年間、センター長として刑余者支援に携わらせて頂きました。この3月をもって、済生会熊本福祉センターを退任することとなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

センターは、刑務所を出所しても帰住先がない「障がい者」や「高齢者」に対して、出所後、円滑に地域生活へ移行するための医療や福祉の調整を行う機関として、各都道府県に設置されています。支援対象者が出所する前から、出所後の住まいを探したり、身体や障がいの程度に応じて受け入れができる施設を探すなどの環境調整を行っています。2020年7月に前任者よりセンター長業務を引き継ぎましたが、当初から試験の連続でした。はじめて刑余者の相談支援業務を経験しましたが、長年に渡る刑務所内の生活で自主性が失われ、家族との関係性が壊れている方が多く、社会復帰をどう支援したらいいのか分からず、自分の価値観が通用しないことに思い悩み考えさせられる毎日でした。SDGsで掲げられている「誰一人取り残さない」包摂性のある社会を目指して、センター内で「断らない相談支援」を行動目標に掲げて支援を行ってきましたが、済生会熊本病院、済生会みすみ病院、済生会熊本福祉センター職員の皆さん及び関係機関の皆様に支えられて、乗り越えることができました。多大なるご支援を頂き、ありがとうございました。

支援対象者の多くは、社会復帰してからも自主的に行動することが難しい傾向があり、当センターだけでは出所後の生活を支えることはできません。本人に寄り添い出所後の生活訓練を行う場が必要であり、支援対象者を受け入れて頂く関係機関は欠かせない存在です。多くの支援者に囲まれて生活することで、人とのつながりを再認識し、「生きづらさ」「孤立感」を解消し、自分なりの馴染みのある社会生活を取り戻した方がいらっしゃいます。センターの事業に理解を頂きご協力頂いた関係機関や地域の皆様には心より感謝申し上げます。

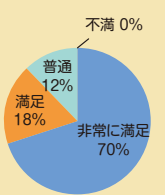
また、済生会熊本病院で時々顔を合わせる利用者さん、異動後に知り合った利用者さんがいます。顔を合わせる度に、必ず声をかけてくれます。「今日のお昼は何だった?」「元気?」など、その一声一声が自分を元気づけてくれていました。本当にありがとうございました。

支えて下さった皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、退任の挨拶に代えたいと思います。本当にありがとうございました。

2023年度 満足度アンケート集計結果 ～福祉センター「利用者（児）満足度調査」集計結果より～

済生会熊本福祉センターでは、各施設を利用されている皆様を対象に毎年「利用者（児）満足度調査」を行なっています。回答にご協力して下さった皆様ありがとうございました。下のグラフは各事業所の総合評価の結果です。

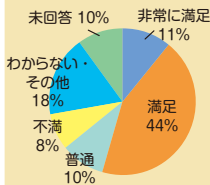
済生会かがやき (34名／34名回答 回答率100%)



今年度も、昨年までの満足度調査アンケートとの内容を踏襲する形でアンケートを実施しました。回答者については、A型12名、B型22名の計34名の方が回答されました。
全体評価は「非常に満足」「満足」合わせて88%と前年度と比較して増加しました。「不満」に関しては0%に減少しております。
今回各項目の結果の中で、送迎ご利用の際のご意見を頂きました。交通状況による遅延の発生等、送迎時間の遅れが生じる場合はそれらを職員・利用者様・ご家族様へ速やかに共有出来るようにしていき、安心して乗車して頂けるように努めて参ります。
また、各個人の経験を踏まえた上で、「あなたが相談したい事や分からないことに関して、どのくらいで対応してくれますか?」という質問については「半日中」「1日以内」に対応しているという回答を87%の方にいただきました。職員全員で日々利用者の方の状況を共有し、互いに向き合いながら、個人を尊重し、支援をしている様子が分かる内容となりました。今回の結果よりも、さらに良いかがやきになるよう、職員一丸となって頑張っていきます。

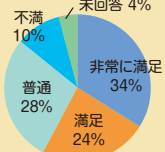
済生会ほほえみ (33名／39名回答 回答率85%)

(B型10名中8名回答・2名欠席、生活29名中 25名回答・4名未回答)



総合評価:「非常に満足」「満足」…55%
B型8名、生活介護29名が回答されました。昨年度より「非常に満足」「満足」が3%増、「普通」は3%減少。B型利用者からの意見としては「休憩時間が短い」「時間に追われる」という意見があった為、作業の間に休憩を設定しています。また「話を聞いてほしい」という意見に対しては「対話の時間」を設ける対応を行い改善しています。普段ひとりで外出することができない為、活動では外出したいという意見もでており、感染症対策を講じながら外出の機会を増やしました。
今後も、皆さんが安心して通える「済生会ほほえみ」となるよう努めて参ります。

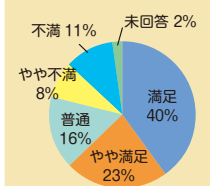
済生会ウイズ (50名／51名回答 回答率98%)



総合評価:「非常に満足」「満足」…58%
今年度は、昨年度より「非常に満足」「満足」が10%（5名）減少。「普通」も6%（3名）減少。不満の理由として「タオルがすまない」「タオルの量が多い」という意見があった。施設整備で「更衣室が狭い」と食品グループより意見が多く出ている。新食品棟では着替えができるスペースを確保する予定。活動で外出することが多くなっているため、「〇〇へ行きたい」という意見は減り、「日帰り旅行したい」という意見がでていた。
今後も、より良い「済生会ウイズ」になるよう職員一同頑張っていきます。

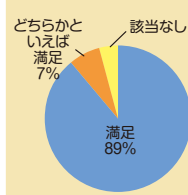
済生会グループホーム事業所 (81名／83名回答 回答率97%)

(うちだホーム利用者 28名 並建ホーム利用者(男性・女性) 34名 地域ホーム利用者 19名)



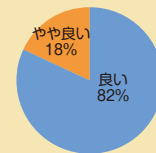
総合評価:「満足」「やや満足」…63%
当該グループホームに入居されている利用者さん総勢81名が回答されました。昨年度より「満足」「やや満足」が8%増、「普通」は5%減少。「不満」「やや不満」は2%減少という結果になりました。
「旅行がしたい」「外出がしたい」「ホーム内の壊れた箇所を修理して欲しい」とのコメントが多く、利用者さんからの要望があれば話し合いの場を設けたり、設備面の不具合については関係業者に連絡し、早期対応を行なっています。
今後も入居者及びご家族の皆様、ひいては外部より利用して下さる皆様に充実したサービスを提供していけるような共同生活援助になるように努めて参りたいと思います。

済生会なでしこ園 (26名／29名回答 回答率90%)



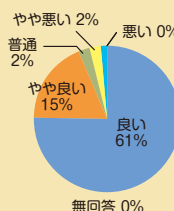
全体の96%のご家族より「満足」「どちらかといえば満足」という返答を頂きました。
自由記述においては、個々の特性に応じた支援により、こどもたちが安心して登園できていることや、家族支援に対する評価が多く記載されており、本園の大切にしている「生きていく力をぐくむ支援」を今後も丁寧に行っていくことの大切さを感じる機会となりました。また、「土曜日支援や長時間支援」の要望、「門の電子錠の施設がされていないことがある」等の、レスパイト機能や安全面に対する不安を記載されるご家族もありました。
安全面の強化はもちろん、今後は、本園に求められる「児童発達センター機能」とのバランスを図りながら、利用児やご家族、地域・関係機関との連携強化に努めていけるよう、より良い施設づくりを行って参ります。

済生会しらふじ子ども園 (130名／159名回答 回答率82%)



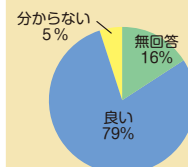
今年度は159家庭のうち130家庭に回答して頂きました。また、今年度も一時保育利用の家庭にも記名式アンケートを配信しています。「良い」「やや良い」の合計が100%という結果でした。
行事の方もコロナ禍以前と同様にできるようになりました。また、ICTを活用し、園全体或いは各クラスの連絡、ホームページ掲載について等を配信する事で、保護者の方にも様々な情報が伝わり易くなった結果だと感じています。
今後もこうしたシステムを最大限に活用し、しらふじ子ども園の教育・保育について発信していきたいと思っています。

済生会熊本福祉相談支援センター (59名／100名回答 回答率59%)



ご契約者の中から100名（無作為抽出）の方を対象にアンケート調査を行っています。今回は郵送に加え、オンラインでの調査を行い、59名の方からご回答をいただきました。総合評価は「良い」「やや良い」が9割強を占め、「悪い」「やや悪い」は2%との結果になりました。
ご意見として相談対応に満足しているとの声を多数いただき、「子供のことや家庭のことなどとても話しやすく、助かっています。」「コロナ禍で3年間対面での相談ができなかったが、前回より対面相談ができ、喜んでます。電話相談の時も担当員に丁寧に丁寧に聞いて感謝しています。」などのご意見も頂戴しております。今後もアンケートで頂いたご意見を活かし、相談支援のスキルやサービス向上に努めてまいりたいと思います。

熊本県地域生活定着支援センター (18名／41名 回答率43%)



定着支援センターでは、昨年度に引き続き利用者満足度調査を実施しました。支援対象者41名に郵送で送付し、18名の方に回答していただきました。
今年度の調査では前年度に比べて回答率が低下しましたが、「定着支援センターをどう思うか」という質問に対して、「良い」と答えた方は増加する結果となりました。前年度同様に、「支援のなかで嬉しかったこと」や「支援のなかで嫌だったこと」を自由に書いてもらう欄を設けたことで、私たちの支援を客観的に振り返る良い機会となりました。
今回の調査結果をもとに、今後の支援をより良いものにしていきたいと思っています。

熊本福祉センター 2024年度事業計画

2024年度は当センター開設20周年を迎え、20周年事業プロジェクトを立ち上げ様々なイベントの準備を進めており、2023年度から引き続き将来の福祉事業継続に向けた大規模な施設整備では開業19年目を経過したクリーニング事業の改修工事及び機器更新、グループホーム事業のホーム拠点集約化の推進、新設した食品加工棟における新たな事業展開の模索など利用者の工賃向上は勿論のこと、熊本病院、みすみ病院をはじめとする受託事業の質を高め、地域社会に貢献する組織運営を行っていく。その他、現在当センターの障がい福祉サービスで足りていない放課後デイサービスの検討を行い、子どもから高齢者までの切れ目ない障がい福祉サービスを担える施設を目指していく。

2024年度のキーワードは『Re-START』とし運営基本方針の項目はこれまで通り、品質向上、連携協働、安定経営の3本柱とした。熊本福祉センター全体に浸透するまで継続的に取り組む。

済生会熊本福祉センター 2024年度 運営基本方針 キーワード：Re-START

大項目	中項目	SDGs
1. 品質 向上	①ICT等を活用し、支援や保育の質向上 ②人材育成に注力し職員の成長を推進 ③設備や機器を更新し質の高いサービスや商品を提供 ④環境整備の推進（5S：整理・整頓・清掃・清潔・習慣）	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
2. 連携 協働	①地域社会とのつながりを強め、福祉センターの認知度を向上 ②福祉センターの一員として共に働く意識の醸成 ③開設20周年関連事業の実行と広報活動の強化	3 持続可能な開発目標 17 パートnership for the goal
3. 安定 経営	①利用者や園児の受け入れを推進し、地域社会に貢献 ②リスク管理とコンプライアンスの徹底 ③収益力アップの取り組みと管理会計による経営強化	8 持続可能な雇用と経済成長 12 つきまわす経済

※ICT：Information and Communication Technology 情報通信技術を活用したコミュニケーションのこと

事務局

済生会学会

1月27、28日の2日間で令和5年度済生会学会が開催されました。今年の開催地は熊本で、2016年の熊本地震、2020年のコロナウィルスの影響で2度の中止を経ての開催となりました。

参加者は全国から約2700人が参加し福祉センターからは、27日の福祉施設長会議、28日の学会総会含め50名以上が参加しました。学会総会では、一般発表者として12名が業務についての発表を行いました。熊本開催ということで、多くの職員が関わり、交流することができ、素晴らしい会になったと思います。



職員が発表している様子です



第20回 たのしい 発表会

2023年12月9日（土）城南にあります、火の君文化センターにて「第20回たのしい発表会」を行いました。対象クラスは2歳児（うさぎ組）～5歳児（らいおん組）。今年は人数に制限を設けずお家の人に見に来て頂くことが出来ました。

子どもたちは、広いステージでドキドキしながらも、客席で見てくれているお家の人を見つけて、ニコニコで手を振る姿も見られました。遊戯曲に合わせた可愛い衣装を身につけ、楽しそうに踊る姿や、劇では自分のセリフを堂々と言う、カッコいい姿を見せてくれました。お家の人からたくさんの拍手をもらい、自信に繋がったのではないかなと思います。私たち職員も子どもたちの成長を感じることができ、嬉しく思いました。



済生会しらふじ子ども園

音楽会＆ お正月遊び

1月19日に音楽会を開催しました。今回の音楽会には地域の民生委員・公民館員の方にも参加して頂き、子ども達もいつもと違う雰囲気を楽しむ様子が見られました。会では、職員と子ども達による『山の音楽家』の生演奏、かるたやけん玉・羽付きなどのお正月遊び、鬼のパンツのダンスと盛りだくさんの内容でした。お正月遊びでは民生委員の方と羽子板に挑戦し、上手く羽を飛ばすことができると満面の笑みを見せてくれました！今後も地域の方をはじめ外部の方と交流を行いながら子ども達が様々な経験を積んでいけるようなイベントを行っていききたいと思います。



済生会かがやき

済生会ほほえみ

おおぜき みか
大関 未加 さん



いやなことがあっても負けずに頑張ります。

さしきの たかのり
桧敷野 孝紀 さん



今年はアビリンピックで金賞を取るように頑張ります。

なかはら はるか
中原 悠 さん



仕事と色々な勉強を頑張ります。

みやはら まこと
宮原 真琴 さん



一生懸命仕事を頑張ります。

みはら りこ
三原 璃香 さん



素敵な大人になっていろんなとこに行きたいです。これからもSOチアを頑張ります。

はたちの記念式典

二十歳の抱負

発行所
済生会熊本福祉センター
発行責任者 宮川 栄助
編集 広報委員会
熊本市南区内田町3560-1
TEL 096-223-3330
FAX 096-223-3429
<https://www.sk-fukushi.jp/>

